

## 令和3年度4月 定例市長・市政記者懇談会の結果について

日時 令和3年4月2日（金）午前11時00分～正午

場所 市役所2階 第1委員会室

出席 市政記者クラブ8社

### 会見内容

#### 1. はじめに

- 新年度を迎えて最初の記者懇談会にあたり、一言ご挨拶申し上げます。
- 先般閉会いたしました2月定例市議会において、令和3年度各会計予算案について、議決をいただいたところです。
- 今回の予算編成では、新型コロナウイルス感染症による市民生活や経済活動への影響からの回復と、「釧路市まちづくり基本構想」における重点戦略の取り組みを推進するため、3つの政策テーマとして、
  - ・地元企業の振興と 地域経済を担う 人材の確保
  - ・学力向上と 幅広い連携による 子どもたちの可能性の拡大
  - ・「強靱化」「防災」の考え方を取り入れた 地域社会の構築を設け、その実現に資する事業に対して、予算の重点化を図りました。
- また、基本構想と共に、引き続き、釧路市における人口減少対策を推進していくため、「第2期 釧路市まち・ひと・しごと 創生総合戦略」に掲げるさまざまな施策や事業に取り組んでまいります。
- 後程、話題としてお伝えさせていただきますが、今月から医師会や各医療機関の皆様のご協力により、新型コロナウイルス感染症のワクチン接種を開始いたします。
- 改めまして、市民の皆様には、感染予防へのご協力をお願いいたしますとともに、感染拡大防止と経済活性化の両立を目指し、着実にまちづくりを進めてまいりたいと考えております。

#### 2. 話題提供（2項目）

##### 1. 新型コロナウイルスワクチン接種における接種体制について

- 最初に、新型コロナウイルスワクチン接種における接種体制についてです。
- 新型コロナウイルス感染症の予防接種につきましては、現在、医療従事者への先行接種が実施されております。
- 65歳以上の高齢者への接種については、4月12日の週に約500人分、次いで4月26日の週に約500人分のワクチンが供給される予定となっており、重症化予防とクラスター防止の観点から、まずは、高齢者施設 入所者などを対象に接種する調整を行っております。

- 施設入所者以外の高齢者の方については、ワクチンの供給量が確定し、接種体制が整った時点で、接種券を発送する予定としており、詳細が決まり次第、都度、情報発信に努めてまいります。
- また、昨日4月1日(木)から、「釧路市新型コロナワクチンコールセンター」を開設したところであり、ワクチン接種に関する問い合わせに対応してまいります。
- ワクチン接種につきましては、市内の医療機関の皆様、市民の皆様のご協力なくして、接種が成り立たないことをご理解いただき、改めて、この場を借りて、ご協力をお願いしたいと存じます。

## 2. 釧路市飲食店応援支援金の給付について

- 続きまして、釧路市飲食店応援支援金の給付についてです。
- 釧路市では、新型コロナウイルス感染症で特に影響を受けている飲食店の皆様へ、事業継続を応援するための支援金を給付いたします。
- これは、釧路市内で店内飲食を行っている飲食店のうち、感染防止対策に取り組んでいる事業者に対し、事業継続の一助となるよう釧路市が独自に給付するものです。
- 1店舗あたり20万円を給付するものであり、昨日4月1日から飲食店応援支援金対策班を立ち上げ、申請受付を開始しております。
- 申請書や申請の手引き等は市のホームページで公開しているほか、市内17カ所で配布しております。
- 国や北海道の新たな支援策が随時公表される中において、市としてできる対策を、実施するものであり、今後につきましても、引き続き、事業者に対する支援の検討を進めてまいります。

## 3. 質疑要旨

(質問)

- ・ ワクチン接種の関係ですが、現段階での想定では、接種券の配布は、4月中は難しく、5月以降になるという見通しでしょうか。

(市長)

- ・ 現在、国の発表によると、6月末までに高齢者向けのワクチンが全国に供給される予定で進められていると聞いております。接種券が着いてからの作業等を考えれば、2週間以上前には送付していこうと準備をしておりましたが、これがいつぐらいになるのかということです。今のところはっきりしていることは、4月中に1,000人分のワクチンが届くということです。現在、施設に入居している方が、老健、特養、養護老人ホームで約1,200人となっており、あわせて、そこで働いている従事者の方々も接種が可能となりますので、これが約1,000人になります。4、5月で、どのぐらいの供給量であるかという所ですので、しっかりと調整していきながら、それ以上の量が確保された際には、速やかに接

種券を送付して、予約ができる形をとっていくことになると思います。しかしながら、現段階では不明な状況です。

(質問)

- 例えば、6月末までに終わらせるとなると、5、6月にかなりの作業が重なることになると思うのですが。

(市長)

- 6月中に全てのワクチンが供給される前提になっている訳ではありますが、そのような場合に、実際にどのようなことになるのかということはありません。単純な計算で大変恐縮ですが、個別接種と集団接種でいきますと、各クリニック等において、2、3瓶、10人か15人分ぐらいの接種をお願いし、40カ所ぐらいのクリニックに協力をいただければ、600人程度になります。あわせて、基幹病院は、1,000人程度です。マイナス75℃のフリーザーは、釧路市には11台来ることになっており、既に市立病院に1台来ている状況です。フリーザー配備の体制を整えば、そこに合わせて配送体制を作りながら行っていく形になりますので、1日に可能な数は、そのぐらいの目途になると思います。6月にワクチンが一気に来て、同月に全てを実施することは不可能な話であると思いますし、あくまでも、供給量と接種の人数の関係となります。対象者については、65歳以上の高齢者約56,000人となっております。

(質問)

- 最大で、おおよそ1日1,000人ぐらい可能ということになりますか。

(健康推進課課長補佐)

- 医療機関の方々と調整中ではありますが、平日は1日約660人、休日は1日約1,000人となっております。

(市長)

- 1週間では、660名×5の3,300人プラス1,000人ということで、4,000人ぐらいになります。ワクチンが供給されてくると、そこを踏まえながら進めていく形になると思っておりますので、供給量の目途について、早く発表していただきたいと思っております。

(質問)

- ワクチンの個別接種と集団接種の振り分け方は、どのように決めていくのでしょうか。

(市長)

- 予約の際に選択していただきます。高齢者施設の場合は、対象者が決まっておりますから、その中でできます。接種券を配布した際には、個別接種と集団接種を選んで予約をしていただきます。個別接種については、日頃からのかかりつけ医で接種をできることが非常に望ましいということがあります。集団接種では、最初の間診に時間がかかるということがあります。平日にどうしても接種できないとなると、集団接種会場を予約していただく形になります。

(質問)

- ワクチン接種の500人分については、1瓶で5回分でしょうか。

(市長)

- 5回分です。

(質問)

- ・ 接種については、3週間空けて行いますが、最初の500人分というものは、2回打てる数なのでしょうか。

(市長)

- ・ 確かに、何人分というより、何回分の方が分かりやすいと思います。500人分は、1,000回分となりますので、4月は全体で2,000回分になります。

(健康推進課課長補佐)

- ・ ワクチンの供給量は限られておりますので、1箱約1,000回分の接種ができるのですが、その1箱で2回目の接種分までみてくださいということです、約500人分となっております。

(質問)

- ・ まず、2回の接種を確定させたいから、国は、そのような指示をするということでしょうか。

(市長)

- ・ 解釈の仕方はそれぞれだと思います。我々は、昨日も医師会等と色々と相談を行っております。実際にどのような形で接種を行っていくであるとか、先生方や医療スタッフの皆さんがワクチン接種を終えられていないといった課題もあります。4月12日の週が来るまでに、先生方の接種がクリアできているかを踏まえながら進めていく形になると思っております。私どもも、地域の中で現実的などころを踏まえながら、色々な対応をしていくことになると思っております。その上で、国の方のワクチン量の確保になります。その中で、どのような形をとっていけるか、相談しながら進めている状況であります。

(質問)

- ・ 冷凍庫の設置は、市役所に集約するということでしたが、1カ所にまとめるということでもよろしいでしょうか。

(市長)

- ・ はい、そうです。

(質問)

- ・ 他地域では、電力量が足りなくなり、ワクチンの保管温度が保てなかった問題がありました。10台を設置すると、消費電力が大きくなるようですが大丈夫でしょうか。

(健康推進課課長補佐)

- ・ 冷凍庫1台に1個のコンセントを準備できるように電気工事を行い、対応する予定となっております。

(質問)

- ・ 10台の冷凍庫は、いつ頃届くのですか。

(健康推進課課長補佐)

- ・ 全体の詳細は未定となっておりますが、4月5日に3台が到着する予定です。

(質問)

- ・ 旭川市ではワクチンの配送にタクシーを活用することを検討しておりますが、釧路市は直営で行うのでしょうか。それとも民間に頼む形でしょうか。

(市長)

- ・ 配送については、物流の会社に委託する形で考えておりますが、業者側の車両の能力のこともありますし、1回で何カ所に運べるかということもあります。

(健康推進課課長補佐)

- ・ 配送業者とは、調整中です。前段の高齢者施設については、少数かつ不定期ですの、市役所職員が自前で運ぶ形になります。

(市長)

- ・ 接種券を配布してからは、1日に40数カ所のクリニックを回る形になると思います。その際には、週1回の配送であるのか、また2回であるのかということも出てきます。

(質問)

- ・ 冷凍庫は、4月5日の3台を入れたら、全部で何台になるのでしょうか。

(健康推進課課長補佐)

- ・ 今回、国から配送されるものは、全体で11台となっており、既に1台が市立病院に入っております。

(質問)

- ・ ワクチン接種について、4月に500人分と500人分が分かれてくるのが、難しい状況を作っているように感じます。これは、道が3月に決めた配分計画に基づいて行っていると思うのですが、この配分計画については、どのようにお考えですか。

(市長)

- ・ 配分については、しっかりと進めていただいていると思っております。500人分もそうですが、見通しがはっきりとしていれば、それに合わせながら地域の中で進めていきたいと考えております。そのためにも、日本にどのぐらいのワクチン量が確保でき、北海道にどのぐらいの量が来るのかということがあります。この他に、道には、昨年から色々な発表を医療圏単位で出していきたいと要請をしているのですが、なかなか進んでいない状況となっております。病床使用率や重症化数を北海道全体で出しているのですが、北海道は日本の面積の5分の1である訳ですから、九州と四国を合計した数字を出しているようなものです。北海道は、第三次医療圏と6つの圏域がイコールです。昨年8月に、一つひとつの第三次医療圏の中で、フェーズ1、フェーズ2、フェーズ3、そして軽症者という形で、どのぐらいの病床を用意しますということが、北海道から発表されましたので、第三次医療圏ごとの病床使用率等を示していただきたいと、昨秋や今年3月にも要請をしているのですが、ここについては出ていない状況です。我々が死守しなければいけないことは、命を守るという観点から、医療体制をしっかり確保していくことが重要です。市立病院の感染症の病床は、当初2部屋4床で、これから患者が増えてくる状況で対応していかなければならないことから、結核病棟や精神病棟で病床を増やししながら、医療体制を守っていくために対応してきたところ です。

(質問)

- ・ 医療関係者へのワクチン接種が遅れているという話ですが、一般の方々向けの計画に影響してくる可能性はありますでしょうか。例えば、高齢者向けの接種も12日の週から始められなくなることはあるのでしょうか。

(市長)

- ・ その点については、調整になると思います。釧路の医療関係者については、お医者様も含め、約8,000人で、現在までに、ワクチンが提供されております

のが、約2,700~2,800人分ということです。高齢者の方々への接種が始まる際に、先生方がワクチン接種を終えていないといけないのではないかとすることはあります。先生方や医療関係者の方にしても、色々と不安等がありますので、一般の方々向けのワクチン接種を行う病院から進めていくといった方法もあるかもしれません。そのような事態にならないよう、12日の週の高齢者向けの接種についても、予定どおりに医療関係者向けの接種について、国の責任に基づいて行っていくということで、道が実施しておりますので、こちらがしっかりと進んでいけば、懸念がなくなる訳です。私ども現場としては、接種をしていただく先生方や医療関係者の方については、ワクチン接種は終了していることが必要であると考えております。

(質問)

- ・ 3月末に、日本製紙関係の相談窓口を開設しておりますが、どのぐらいの効果があると考えていらっしゃいますか。

(市長)

- ・ 相談窓口につきましては、道の釧路総合振興局と市が連携して進めており、昨日までの段階では、相談をいただいた事案は無いと聞いております。長い間、釧路に住んでいる方々は、もちろん会社の社員としての行動も大きくありながら、様々な葛藤があると思います。そのような時にどのようにするかということで、道と市で、相談窓口を設置することは、必要な機能であると思っております。

(質問)

- ・ 現在は、日本製紙からの方針の回答を待っている状態は変わっていないということでしょうか。

(市長)

- ・ 3月1日に本社を訪問して、その関係のお話をしてまいりました。新年度に色々とお話をしていきたいと思いますということですが、具体のスケジュール等については、決まっていないものと認識しております。その際には、80ヘクタールの広大な敷地内で、メンテナンス部門、発電部門、不動産部門として、どのぐらいのものを活用しながら進めていくのか、また、どのぐらいのものが使わない形となるのか確認したい旨を伝え、市街地の中に工場が空き、使わない場所があるということは、まちづくりにとってマイナスとなるお話をさせていただきました。会社の中で、しっかり仕分けを進めて、示していきたいという言葉いただいておりますので、具体の作業をしていただいていると考えております。

(質問)

- ・ 2月議会の冒頭で、ゼロカーボンシティの宣言をされておりますが、釧路は炭鉱のまちで、一見ゼロカーボンとは相容れないと思うのですが、釧路という特性もありながらのゼロカーボンの意気込みについて、よろしく願いいたします。

(市長)

- ・ ゼロカーボンについては、菅総理も国として目指すことを宣言されているところであり、そういった動きと一緒に進めていくことが重要であると思っております。釧路市は、石炭・水産・紙パルプで発展してきました。そして、もう一つ重要なものは、環境です。釧路湿原、阿寒摩周の2つの国立公園を有することや、涼しい釧路もそうでもあります。このような自然豊かな環境を、しっかりと守っていくことが必要であると考えております。その上で、CO2排出の実質ゼ

ロ目指すには、排出を抑えるだけでなく、森林による吸収やCO<sub>2</sub>を有効利用するという考え方があります。大楽毛にパプリカの植物工場があり、例えば、植物育成のためにCO<sub>2</sub>を購入し、それを与えるということがあります。他にトマトやベビーリーフ等も同様です。大楽毛の植物工場については、オランダの技術者からも、オランダよりも釧路は環境がいいと言われております。実際、日本の中でもパプリカの生産量はトップです。スタート時は、1平方メートル当たり16、17キロの生産量であったものが、今は10キロプラスし、25、26キロと増えています。何故、それだけ生産性が高いのかということは、温度管理のしやすさや日光時間の長さ等もあり、非常に優位な地域であると考えております。また、釧路コールマインでは、CO<sub>2</sub>を固め、坑道の中に入れるということも行っておりますので、環境を考えた中での施策が、時代の要請にも応えていける形になると考えており、ゼロカーボンシティの宣言をさせていただきました。

(質問)

- ・ 今月から阿寒地域で、地域おこし協力隊の募集が始まったと思いますが、これまでの釧路市での地域おこし協力隊の定住状況と、その状況をどのように受け止めていらっしゃるのかお聞かせください。

(市長)

- ・ 釧路市での地域おこし協力隊は、平成29年度から令和2年度まで8名の方に来ていただいて、現在、1名の方が継続しておりますので、こちらの仕組みが終わった方は7名おります。その中で、現在、地域に残りながら活動いただいているのは、お一人ということです。7人の方に来ていただいて、お一人が今もアイヌ文化の関係で、活躍していただいているところでありますので、7分の1という数字的なものについては、色々なご意見もあるかもしれませんが、私どもは、しっかり効果があるものと考えております。地域の魅力等を踏まえていきながら、ここで頑張っていきたい人が増えていくことは重要であると思っておりますし、そのためにも所得も重要になってくると思っております。気持ち的には、環境が良く、食べ物も美味しいと思っても、地域おこし協力隊のみならず、全てのケースで働くところはどうか、所得はどうなのだろうか等が、色々とウェイトを占めます。まさに、まちづくり基本構想の雇用を確保し、経済を活性化させていく形で、このような仕組み等とも連携するものと思っておりますので、何か一つで全てのことができるという形ではなく、関連させながら進めていくことが重要であると思っております。本制度は、今も活用しておりますし、大変良い仕組みであると考えております。

(質問)

- ・ 今後は、雇用の面で、所得や手当の改善・変更等は考えていないのでしょうか。

(市長)

- ・ 個別の仕事としてではなくて、地域おこし協力隊は、制度として行っているものです。地域の中での雇用や所得を増やしていくことは、継続して進めております。例えば、「k-Biz」釧路市ビジネスサポートセンターでは、お金をかけずに売り上げ増を目指すことで、所得も増やし、あわせて雇用を増やしていくために取り組んでいるところです。

(質問)

- ・ 全国的にオリンピックの聖火ランナーが走り出し、釧路でも6月13日に行われるということですが、様々な不安要素や不確定要素の中で進みだしているところ

ろですけれども、どのように準備が進んでいるのでしょうか。また、ホストタウンとして、7、8月をどのように見据えておりますか。

(市長)

- こちらについては、準備を進めている状況で、釧路での市役所からスタートする15分程度のコースについても発表されております。まずは、しっかりと対策を取りながら実施する形となっておりますので、それに向けて国も動いており、感染防止やワクチン接種を順調に進めながら実施できることを望んでおります。海外の方々は、来日されて観戦することができなくなったということですが、アスリートの方々は、実施したい思いもあるでしょうし、今まで準備した経過等も踏まえると、どのような形でも実施できることが望ましいと考えております。私どものホストタウンは、ベトナムのパラリンピックの選手の関係でありまして、競技のスケジュールは8月となっております。8月24日が開会式で、26日ぐらいからパワーリフティング等の陸上競技がスタートしていきます。前回大会のメダリストの方もいらっしゃいますし、ぜひ、活躍していただいて、また釧路に来ていただき、メダルの報告会ができたらといったイメージを持っておりますが、今後もどのような環境になるかということですので、しっかりとした感染対策や、医療体制を守りながら進めていくことが重要であると思っております。